

【重点領域③ 新しい人材】  
西洋古典資料保存拠点および  
ネットワーク形成事業における  
人材育成

一橋大学附属図書館

鈴木 宏子

2018.6.15

第65回国立大学図書館協会総会研究集会テーマ報告

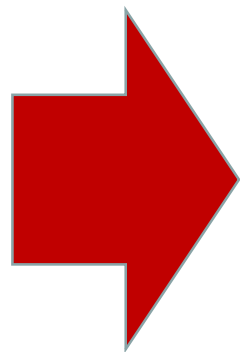
@京王プラザホテル札幌

# 「西洋古典資料保存拠点および ネットワーク形成事業」とは

文部科学省共通政策課題 文化的・学術的な資料等の保存等 H28-30年度採択 概算要求事業

- 明治以降わが国の発展に寄与した学術文化遺産である  
西洋古典資料の現状

- 深刻な劣化
- 専門人材の枯渇
- 保存技術継承の危機



- 中核的専門人材育成
- 保存状況調査
- ネットワーク形成

# 全国の大学で所蔵する主な西洋古典資料

小樽商科大学  
シェル文庫  
大西・手塚記念文庫等

北海道大学  
テーマ文庫  
ボリス・スヴァーリ  
ンコレクション等

京都大学  
ビュッヒャー文庫  
マイヤー文庫  
上野文庫  
財部文庫等

東北大学  
ゼッケル文庫  
ヴント文庫等

主に地域での核となる大学に声をかけ  
研修参加を依頼

大阪大学  
アダム・スミスコレク  
ション  
カントコレクション等

東京大学  
ルター・コレクションア  
ダム・スミス文庫  
エンゲル文庫  
ブリנק文庫等

九州大学  
基礎医学古書集成  
トマス文庫  
17-18世紀国際法  
史・国制史コレク  
ション等

慶應義塾大学  
アダム・スミス文庫  
インキュナブラ  
コレクション等

名古屋大学  
ホップスコレクション  
18世紀フランス  
自由思想家コレクション  
水田文庫等

中央大学  
ヒュームコレクション  
ベンサムコレクション  
等



派遣元：各図書館

# 実務研修制度



受入先：  
一橋大学社会科学古典資料  
センター

## 成果の還元

- ①環境調査、劣化調査の実施および環境改善
- ②保存知識による蔵書管理のマネジメント
- ③自館または地域での研修会による専門知識の伝搬と継承



## 保存修復工房にて 実務研修 (1~3か月)

\*研修期間方法は応相談

- ①専門知識の習得
- ②保存修復実務の実習
- ③各館の状況に応じたアドバイス
- ④都内近辺の図書館等を訪問調査



# 実務研修実績

- H28年度
  - 4名（国立大学2、私立大学1、国立図書館1）
- H29年度
  - 4名（国立大学3、国立図書館1）
- H30年度（予定）
  - 2名（国立大学2）

# 実務研修のコンセプト

- 修復技術を学ぶというよりは、
- 資料保存についてトータルにマネジメントできる人材を育てる。
  
- 習得した技術はその研修生一代で終わる可能性もあるが、
- マネジメント能力は各館の状況に合わせてカスタマイズし継承していくことができる。

# 実務研修生のコメント



**東京地区 国立図書館**  
(H28年6月, H29年5月)

西洋古典資料の実物に触れながらマンツーマン体制で丁寧にご指導  
いただけたこと、特に**専門的な知識・技術が必要とされる革装本の  
保存処置**について集中的に学べたことは、私にとって非常に得難い  
経験となりました。この度の実習で得た知見を、今後の資料保存活  
動に大いに活用させていただきたいと思います。



**北海道地区 国立大学図書館**  
(H28年10月)

時間をかけて学ぶ中で、実践的な知識だけでなく**コレクション全  
体として資料保存を考えるという視点を身につける**ことができま  
した。マンツーマンの手厚い研修体制で瑣末なことも気軽に質問  
できる点が他の研修にない特長だと思います。本学の状況につい  
て専門家ならではのアドバイスをいただくこともでき、感謝して  
おります。



# 実務研修生のコメント



東京地区 私立大学図書館  
(H28年11-12月)

こちらの要望に沿ったカリキュラム設定で、社会科学古典資料センターで長年培われてきた資料保存に対する取り組みを体系的に学ぶことができました。マンツーマンによる指導で、率直な質問や意見交換もしやすく、今後本学における資料保存対策を考える上で、向かうべき道を教えていただいた研修となりました。



関西地区 国立大学図書館  
(H29年1-3月)

劣化調査から保存修復の実技まで、細部に亘って細やかにご指導いただき、大変勉強になりました。研修を終えまして、当館でも、西洋古典籍に対する劣化調査を始めております。お世話になりました一橋大学社会科学古典資料センター、並びに附属図書館の皆様には心より御礼申し上げます。本当に、ありがとうございました。



# 実務研修生のコメント



九州地区 国立大学図書館  
(H29年6-7月)

実務研修では製本構造から資料の劣化状態を把握するという目を養うことができました。その資料が作られた背景など、資料の背負ってきた歴史を原材料や製法から読み解くことができるということも興味深かったです。

1点1点の資料の状態を把握することは容易ではありませんが、資料を後世へ残していくために、研修で学んだことを活かしていきたいです。



東北地区 国立大学図書館  
(H29年9-12月)

本学では近年、古典資料の組織的な保存計画を進行中です。今回は担当部署の一員としての研修参加でした。延べ6週間のカリキュラムを3回に分けていただき、宿泊所なども遠方からの参加には嬉しい環境でした。マンツーマンの実習方式で、一般的な知識・技能はもちろん、各館の個別事情に応じた相談ができるのも心強かったです。

上司  
の方

# 派遣元図書館のコメント

実務研修後、講師として「革装本レッドロット対策勉強会」を実施しました。勉強会は大変好評で、これまで数回にわたり開催しています。実務研修で得られた専門的知識を共有することで、本学が所蔵する西洋古典資料の保存に役立てたいと考えています。

当館における「貴重な所蔵資料の利活用のための修復・保存事業」を推進する、人材育成の一環として、このたび参加させていただきました。大変理想的で確実なカリキュラムにより、研修生本人と当館にとって大変有意義な機会となりましたことに感謝申し上げます。



自館の力だけでは持つことができないノウハウの詰まった研修を、じっくり受けられるプログラムがとても魅力的で、スタッフの成長をうながせる貴重な機会だと思います。また、研修期間の相談にも応じていただけるため、スタッフを出す側としては大変助かりました。ありがとうございました。

平成30年秋の新図書館オープンに向けた資料移転の準備を進めており、中でも、劣化した貴重書をどうやって無事に移転させるかが喫緊の課題となっています。研修生には、今回の研修の成果を早速活かして、対策の検討から実行までのマネジメントをしてもらいたいと考えています。

研修後、所蔵する西洋古典籍の劣化調査を計画立案して、研修で考案したカルテによる劣化調査を実施する等、本研修の成果を大いに活かし、また得られた知見を他の館員へ継承し、本学の保存修理業務の中心的役割として活躍してもらっています。本研修は、着実に本学業務に活かされています。

# 本事業にて気付いたこと

## 一橋大学社会科学古典資料センターの役割

- 国内唯一の西洋古典資料に特化した工房を持つ図書館および研究機関
- 西洋古典資料保存に関する講習会実施等その知識と技術の伝搬に努めてきた。

## しかし、図書館を取り巻く環境や図書館の機能の変化により

- このままでは資料保存について共に協力すべき図書館も人材も周りに居なくなってしまうのではないか

## そこで、本事業の本学にとっての意義を改めて考えると

- 全国の人材育成 = 古典資料センターにとっての**協働する仲間**の育成
- 全国的な人材育成は、実は本学にとっても、いや本学にこそ必要とされるものであった。

## 全国的にも、実務研修生の今後の活躍に期待

- 各大学内で異動はあるものの、今後も本研修を受けた人材として**学内および各地域で活躍の場**を作ってほしい。

## 保存は終わりの無い事業

- 修復や劣化への手当をしても新たな劣化が生じることもある。
- だからこそ、**人材育成とその協力=ネットワークが必要**。

# 国大図協ビジョン2020 における本事業の実践

重点領域3. 新しい人材: 知の共有・創出の  
ための〈人材〉の構築

## 知の共有・創出のための〈人材〉の構築

大学図書館は、さまざまな能力やスキルを有する人材が混在するハイブリッド（複合的）な人材の集合体を形成することで、大学図書館に期待される新たな役割を果たすとともに、多様な知の共有と創出を促す。そのために、新たな人材の構築が実現できるような制度を整備する。

### 目標1 新たな人材の参画

国立大学図書館は、教員、職員、研究者、学生等を含むさまざまな能力やスキルを有する人びとと図書館職員とが一体となり、蔵書の評価や選別にかかる「キュレーション」や人と知識や情報、あるいは人同士の相互作用を促す「ファシリテーション」等の機能を提供することにより、多様な知の共有と創出を実現する。

### 目標2 国立大学図書館職員の資質向上

国立大学図書館職員は、これまで培ってきた学術資料に関する専門的知識やメタデータ運用スキルに加え、新たな知識やスキルを習得することにより、学術情報流通環境の変化の中で国立大学図書館に期待される新たな機能を実現する。

# この事業でできたこと

- 目標2) 大学図書館員の資質向上

長期実務  
研修の実施

- ①既存の人材の高度化:

大学図書館は、現職の大学図書館員に対して、出現しつつある新たな業務、例えば蔵書のキュレーション、ファシリテーションを担う人材となるための、あるいはそのような新しい人材の業務を調整するための必要な**知識、スキルを習得できるような研修などを実施**し、学内の関係部署と連携して、知の共有、創出に貢献する。

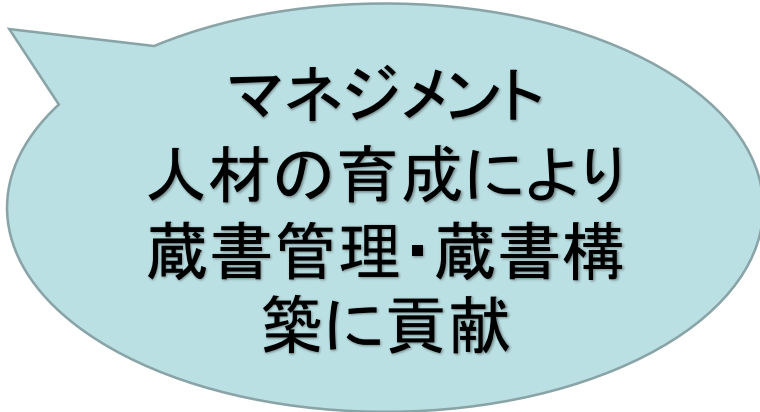


# この事業でできたこと

- 目標1) 新たな人材の参画

- ② 専門的知識を活かした蔵書構築:

大学図書館は、専門的知識を有する人材を活かして蔵書を評価し選別し、知の共有の実現に貢献する。



マネジメント  
人材の育成により  
蔵書管理・蔵書構築  
に貢献

もっと

# これから必要なこと、足りないこと

- 目標1) 新たな人材の参画
  - 多様な人材・組織との協働
    - 美術館、博物館等
    - 大学学術資源を有する研究組織
  - 学内外の研究者との連携
    - 古典資料を研究対象とする研究者
    - 歴史研究者
    - 博物館学や保存科学の研究者
    - etc

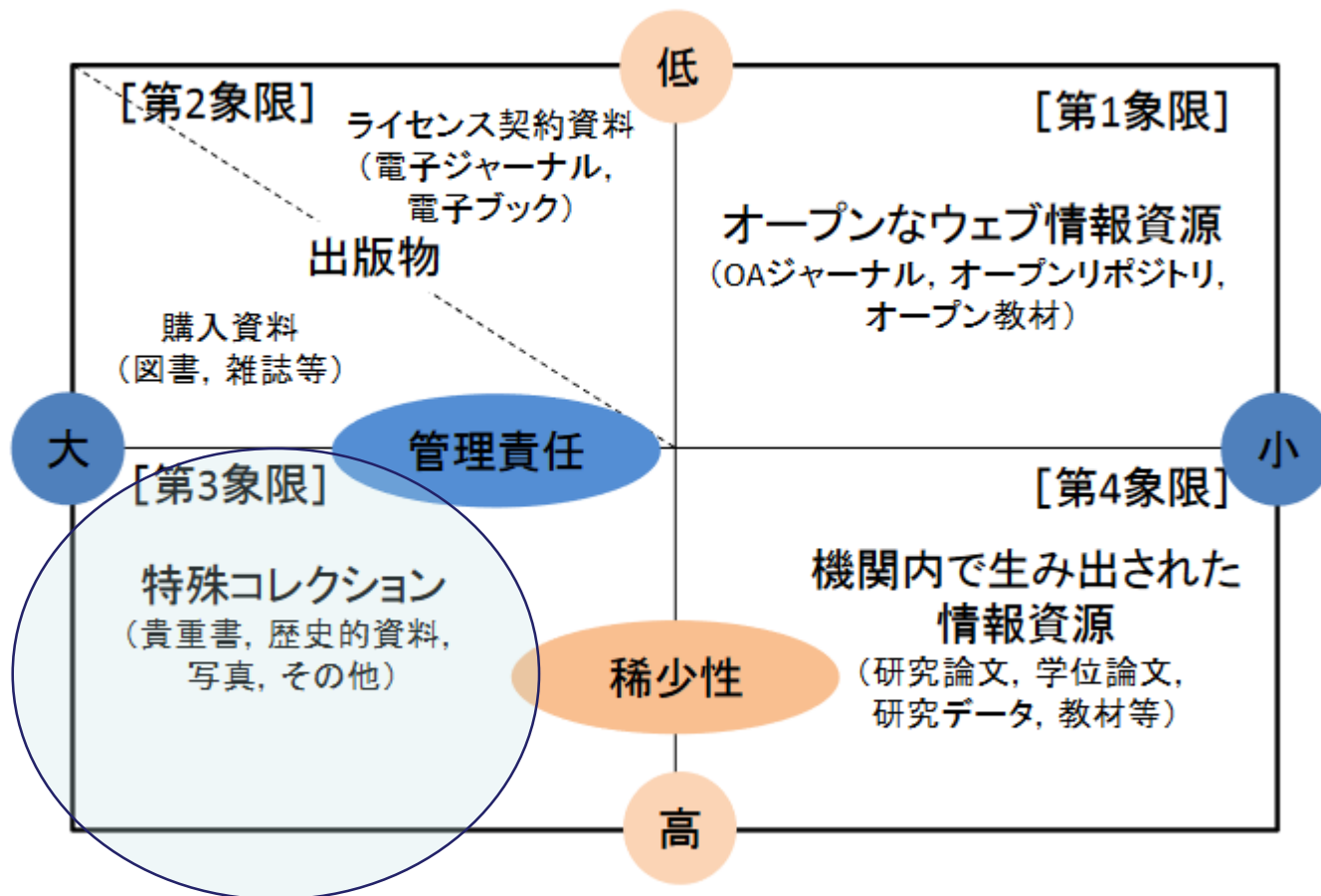
まだまだ

もっと

# これからやりたいこと・やるべきこと

- 目標2) 大学図書館員の資質向上
  - 新しいキャリアパスの設計
    - 研修成果を活用できる環境
  - 人的交流の拡大
    - 図書館だけでなく、同じテーマを持つ人材のネットワーク形成

# コレクション・グリッド



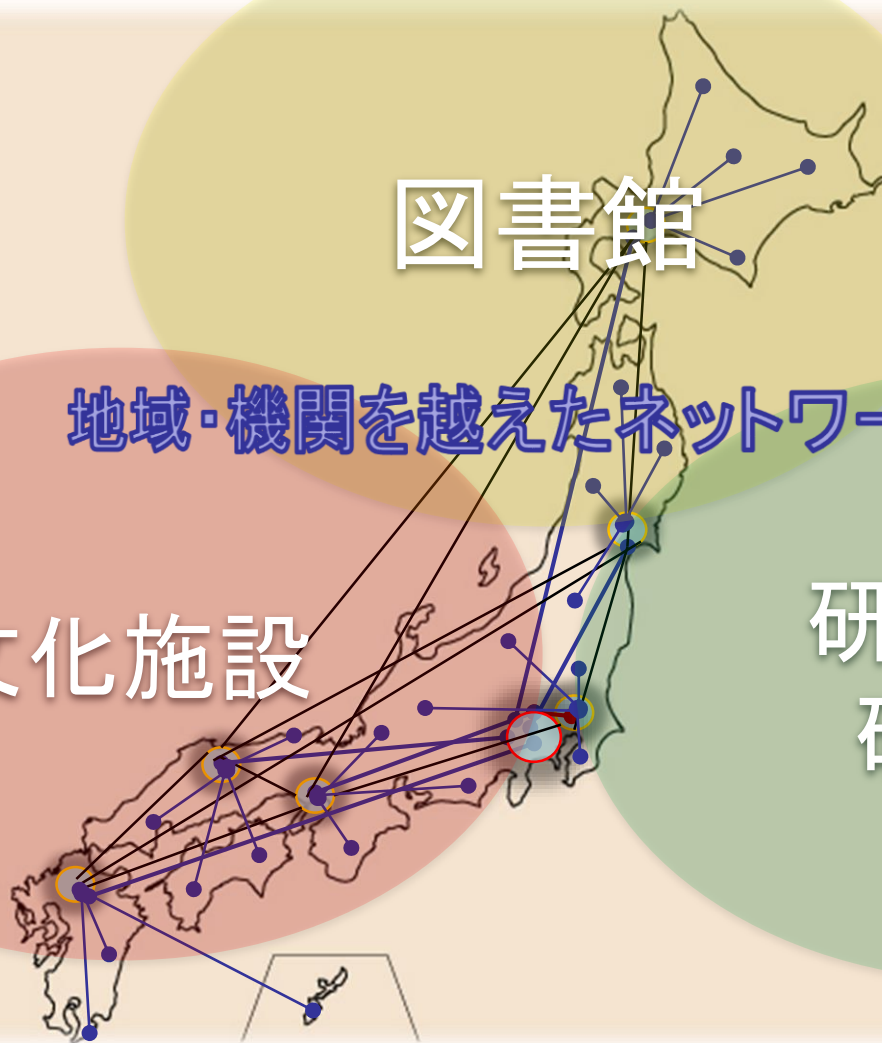
【図5】 これからの大学図書館がサービス対象とするリソースの全体像

図書館

地域・機関を越えたネットワークへ

文化施設

研究機関  
研究者





# ネットワーク形成



「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」の実務研修終了後も、実務研修参加館とは引き続き連携・協力を継続していただくとともに、西洋古典資料保存のための研修の成果や保存処置の事例等を発表・共有し情報交換できる場として、「西洋古典資料保存のためのネットワーク（西洋古典ほぞんネット）」を形成したいと考えております。全国のご興味ご関心のある大学・機関の図書館の皆様にはぜひともご参加・ご協力いただければ幸いです。



# 参考文献

- 床井 啓太郎. 西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業. カレントアウェアネス-E. E1846 No.312, 2016.10.06  
<http://current.ndl.go.jp/e1846>  
(accessed 2018-02-27)
- 西洋古典資料の保存に関する全国的拠点の構築 —社会科学古典資料センターの取り組み. HQ vol.56 秋号(October 2017) [http://www.hit-u.ac.jp/hq/vol056/pdf/hq56\\_10-12.pdf](http://www.hit-u.ac.jp/hq/vol056/pdf/hq56_10-12.pdf) (accessed 2018-02-27)
- 鈴木宏子. 平成28年度～30年度文部科学省共通政策課題(文化的・学術的な資料等の保存等)「西洋古典資料保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」の2年間を終えて. 一橋大学附属図書館研究開発室年報 第6号 2018 (近日一橋大学機関リポジトリHERMES-IRにて公開予定)